

コミュニティ・スクールのセカンドステージに向けて

地域の
特色ある
活動

兵庫県伊丹市教育委員会

1 はじめに

伊丹市は兵庫県の南東部に位置し、人口は約20万人であり、現在も増え続けています。

江戸時代から酒造業が盛んで酒を取り巻く文化が令和2年度に「日本遺産（伊丹諸白と灘の生一本）」に認定されました。

近年、子供を取り巻く環境が複雑化・困難化し、様々な課題を学校だけで解決することが難しくなってきたことから、平成27年度より「コミュニティ・スクール」を導入し、令和2年度をもって、全小中高等学校及び特別支援学校計27校への「学校運営協議会」の設置が完了しました。

2 コミュニティ・スクールの足跡

(1) 主な機能

地域とともにある「学校運営協議会」の欠かせない機能に「熟議・協働・マネジメント」があります。「学校運営協議会」においては、学校と地域が教育ビジョンや学校の課題等を共有し、熟議を通して特色ある学校づくりに取り組んでいます。

令和2年度は、新型コロナの影響で活動に様々な制約を受けましたが、「主な協議内容」及び「協議を深めるための工夫」は以下の通りです。

(2) 主な協議内容

- ・1人1台のタブレット端末の活用について
- ・校内研究の推進について（授業参観から）
- ・制服や校則のあり方について

- ・教育活動の支援（九九、家庭科、クラブ活動等）について



地域住民による九九の聞き取りの様子

- ・新型コロナウイルス感染症対策について
- ・コロナ禍における「心のケア」について
- ・学習環境の充実について
- ・学校評価や学校教育目標について

(3) 協議を深めるための工夫

- ①学校運営協議会委員（以下委員と表記）による授業参観
- ②委員と教職員との意見交換
- ③委員と生徒会役員との懇談会
- ④委員の校内研修会への参加

このような活動を通して、委員がそれぞれの立場で課題の解決に向け「何ができるのか」「どのようにすればできるのか」といった視点で意見を出し合い協議を深めています。そこから、学習環境の改善や授業改善、地域住民による「九九検定」など様々な取組が生まれました。

(4) 成果と課題

学校運営協議会では、恒常的な「質の向上」を図るため、毎年学校運営協議会の会長及び校長を対象に「アンケート調査」を実施しています。

令和2年度調査からは、「学校運営について十分な熟議ができた（会長92.3%・校長96.3%）」「情報共有するようになった

(76.9%・92.6%)」などの項目は会長、学校長ともに「肯定的な回答」の割合が高いことが分かります。一方「教職員の業務改善が進んだ（校長 59.3%）」「教育課程の改善が図られた（校長 66.7%）」などの具体的な課題については、年々改善が進んでいるものの十分な成果が出ているとは言えません。

アンケート項目	会長	校長
学校運営について十分な熟議ができた	92.3%	96.3%
学校と地域が情報共有するようになった	76.9%	92.6%
学校関係者評価が効果的に行えるようになった		92.6%
学校に対する保護者、地域の理解が深まった		81.5%
学校運営協議会の取組はやりがいや誇りがある	73.1%	

【自由記述から】

「アンケート調査」においては、自由記述欄を設けています。自由記述における「Top2」は、会長は「教職員とつながり、教職員の思いを知ること」「人材の確保」を、校長は「教職員と委員との交流、協働体制の構築」「協議内容の充実、委員等の人材確保」を挙げております。両者とも委員と教職員がつながる場の設定が必要であると考えていることが分かります。

3 セカンドステージに向けて

全ての学校への「学校運営協議会」の設置が終わり、次の目標は学校運営協議会の質を向上させていくことです。

(1) 学校運営協議会の充実に向けた取組

①「協議・熟議」を充実させるために

- ・分かりやすい情報や資料の提示

調査結果等の客観的データや校長・教職員の「願い」や「困っていること」などの提示

- ・丁寧な事前準備

協議内容の精選

- ・協議・熟議方法の工夫

事前の資料提供や少人数による協議の導入など委員全員が意見を言える場の設定

②「やりがい」を感じられる学校運営協議会への転換

- ・「学校の一員」としての意識づけ

教職員への紹介や学校要覧・HPへの掲載、教職員への学校運営協議会の役割や取組の紹介

- ・委員の達成感、自己有用感の醸成

一人ひとりの委員が思いを活発に語る雰囲気の醸成

(2) 教育委員会の支援

設置年数等によって「学校運営協議会」の質に格差が見られます。格差を是正するために以下の取組を実施します。

①情報交換の場の設定

- ・各会長を対象とした「推進協議会」の開催（年2回）

- ・各会長、管理職を対象とした「拡大推進協議会」の開催（年1回）

- ・「CSディレクター研修会」（年1回）

②全体研修の場の設定

- ・「コミュニティ・スクール研修会」の開催

- ・「コミュニティ・スクールフォーラム」の開催

③定期的な「アンケート調査」の実施

④教育委員や指導主事の参加による実態把握及び課題の検証



コミュニティ・スクールフォーラムにおける実践発表

4 おわりに

子供を取り巻く環境が複雑化・困難化する中、子供たちの「健やかな成長」は、社会総がかりの教育にかかっています。

その要となるのが「学校運営協議会」であり、やりがいを感じられる「学校運営協議会」をめざし、教育委員会が全面的に支援していきます。



教育長
木下 誠